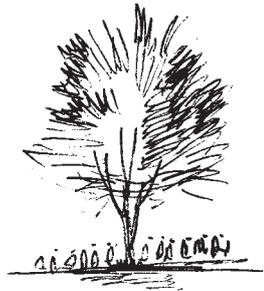


ひかりのこ

光の子

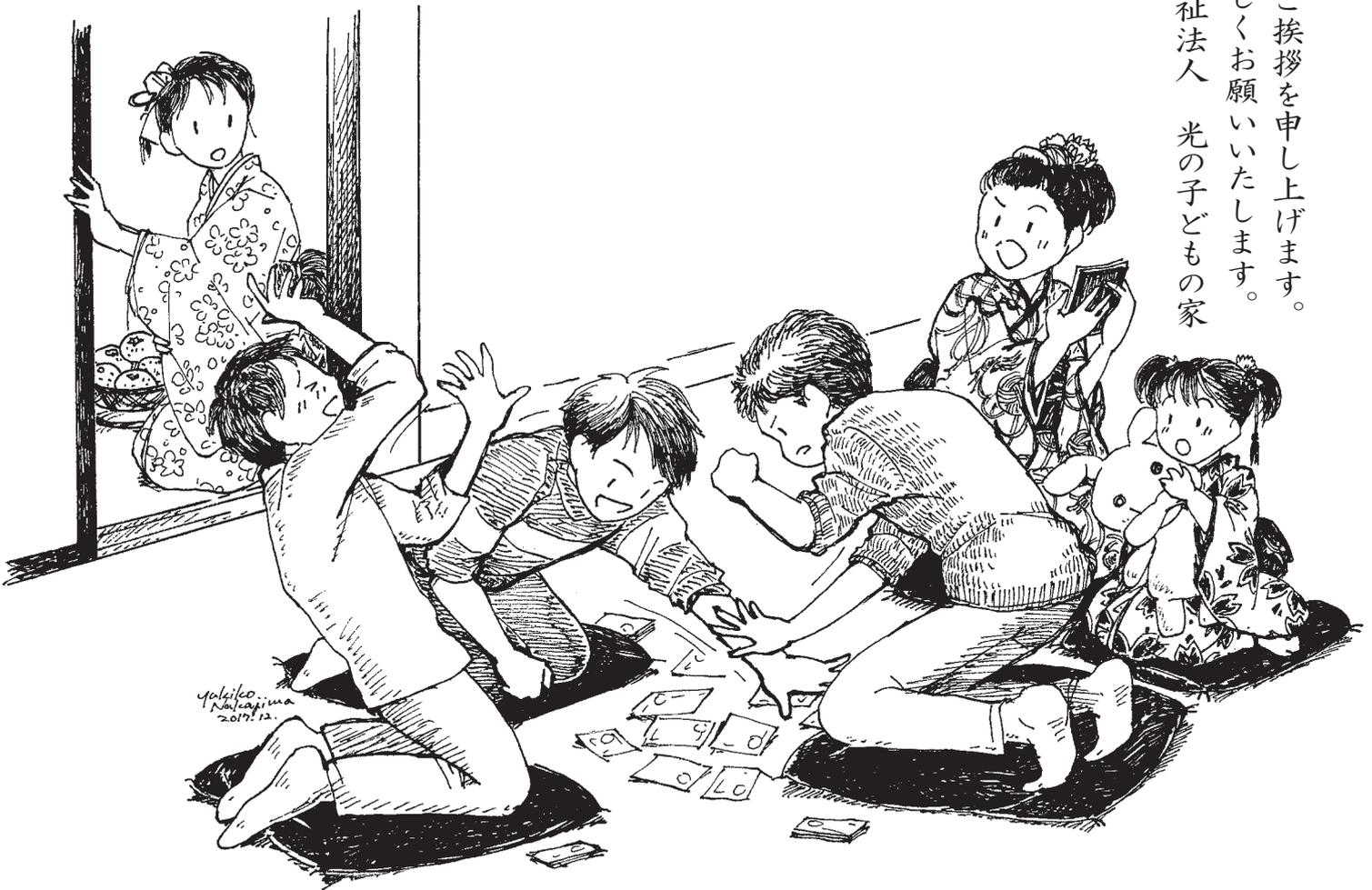


No.183 2017.12.30

●年間聖句 一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
(ヨハネによる福音書12章24節より)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
本年もよろしくお願いいたします。

社会福祉法人 光の子どもの家



「カルタ」

表紙絵・中島由起子

※今号の俳句は、休載します。

発行／社会福祉法人 光の子どもの家 TEL／0480-72-3883 FAX／72-6649 振替／00130-1-128022
編集／光の子 編集委員会 e-mail:hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp 〒349-1155 加須市砂原277 印刷／株式会社エル・アートデザイン
HPアドレス／hikarinokodomonoie.com

新しい年を迎えて

施設長 竹花 信恵

新年あけまして

おめでとございます。

本年もどうぞよろしく

お願いいたします。

昨年、すべての子どもたちの育ちを保障し、子どもが権利の主体であることを明確にした児童福祉法の改正を経て、その理念を具体化するものとして、「新しい社会的養育ビジョン」の検討内容が報告書として提示されました。児童養護施設である私たちと無縁ではなく、特に就学前の子ども施設への新規措置停止などの案について、この光の子ども家で、今後幼い子どもたちが暮らせなくなっていくのではと、これからどうなるのだろうかとしてしばらく考えさせられました。その一方、こんな時だからこそ、私たちはこうしていきたい、ここを変えていく、ここは変えない、と主張できるはたらきの大切さを感じています。そして「子どものための子どもの施設」というこの家の理念をこそ具体化させる私たちのビジョンを考え続けていこうと思います。

光の子ども家は、家庭という環境と家族という関係を失った子どもたちにそれに代わる環境と関係をできる限り普通の家としてつくっていくということをキーワードに創られました。三十三年という月日を重ね、できたことよりできていないことのほうが多いのですが、家族のように、関係が近いからこそでくる「めんどくささ」「一筋縄ではいかないこと」も含めて関わり

続けてきました。ほとんどの子どもに「本当の家族」がいて、一緒に育てていきましようというメッセージを届けること自体が困難な状況も増えてきていて、あらためて簡単ではないことを痛感しています。

大声で思いつきり叫べる大草原に連れていきたいくらいぎつりつまった重さを解き放ちたい子どももいます。あまりに重くて受け止めるのによるめいてしまいます。子どもを中心に、子どものためにという想いはあっても空回りになってしまふことも数えきれません。嬉しさや楽しさは二倍に、悲しさ、苦しさが半分になるような「隣に人がいる」暮らしをめざすことはかわりませんが、私たち自身のことしか考えられない状態や様々な劣化とたたかうことなしには、できないことに今更のように気づいている今日この頃です。

かつて子どもでなかった大人は誰もいないのですが、いつのまにか「肩の位置」はずれていきます。子どもの視線に合わせることを忘れていきます。あれだけ気を付けたいと思っていたのに上から視線になってしまいます。そんな時サインを送ってくれるのは、子どもたちであり、「そんな言葉を使わないでほしい。ちょっと乱暴なだけどもっとわたしを大切に。もっと話を聞いて。」と言われてしまう私たちです。言ってくれる子どもたちになっっていることは良かったと心から思います。意識しないといつのまにかず

れが生じます。いつも感じるのですが、まさに分度器の一度の差の大きさが次に進む方向が違ってきます。ですからわからなくなつたときこそ原点にもどらなくてはなりません。学んでいくのは「失敗」からであり、子どもの声であり、表情であり、さまざまです。「これでもか、まだ気づかないのか」という声が聞こえてきそうです。そのメッセージ、それから学ぶことなしには子どもの役には立ちません。年頭に再び原点に立ちかえります。

生活単位はちよつと大きい普通の家庭、ということ、本体施設は、保育士一名で四名ほどの子どもたちを担当し、そのような二つのグループが一軒の家を構成しています。そして地域で暮らしている二軒をあわせて五軒が光の子ども家です。ちよつと大きい、ということの利点は、何かあつたら言い合える仲間がいるということかもしれません。

また幼い仲間が加わりました。「ドキドキする」という不安と緊張の言葉とともに「ワクワクする」といつてくれました。そんな表現ができることに驚き、よくここまで頑張ってきたんだね、とこころから思いました。

この年をどんな一年にしていくか、ひとつひとつ課題をあげるだけで埋まってしまうそうです。ひとりひとりが安心してすごせる場所でありつづけることができるように、そして今年も光の子ども家らしく歩めるようにお祈りとお支援助よろしくお願いいたします。

私は武骨者で、テニス以外にあまり趣味がない。絵や音楽に蘊蓄を傾ける人たちはあまり得意ではない。自己弁護をすると、全く感性が摩耗しているわけではなく、時として音楽や絵に感動すること

heavenly blue

老健施設みゆきの丘施設長 仙道 富士郎

はある。ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」は何回聞いても、川の流れるような音のつながりが心を静めてくれるし、ゴーギャンのタヒチで書いた絵は、ギラギラした感じが好きである。

といったことでも、草花の名前などにも無頓着であった。一方、妻は草花の名前にめっぽう強いと私には思えるのだが、その道の人から見れば、たいしたことはないのかもしれない。

ただ、妻が花壇に植えてある花には気を留めることが多くなってきた。間もなく八十歳になる身に

とって、論理的なことはどうしても弱くなる。論理の基本的な構成要素であるパラエティに富む単語群の中から一つの単語を選択するのが、とても困難になってきた。文章を書くのに要する時間が大幅に増加する。その分、音や色に感じたりする感性は強く表れるようになるのかもしれない。

ここ数年、妻は朝顔を鉢植えするようにになった。「何本咲いた、今日の色合いはどうだ」といった朝顔の話が、夏日の話に上るようになった。私と妻は両方とも意固地で（妻は違うと言うだろうが）、話は長く続かないことが多いが、朝顔の話は楽しいからだろうか、別の話にまで飛んで行って、続く。

今年も彼女は朝顔を植えた。ところが、朝顔が咲くはずの夏になっても咲かない。妻が作った網の上を蔓が伸びていくだけである。

私は密かに「失敗したのだろうか」と思っていたが、確か九月の末頃になって、それは咲き始めた。しかも、一日に十数個の花が咲き、去年までとは事情が違う。ただちよつと困ったのは、前日に咲いた花が残っていて、それは当然にも、今朝咲いた花とは比べようもなく惨めで、網上の全体の景観が損なわれる。去年までは、方丈記の一

段ではないが「——花残り。残るといへども、朝日に枯れぬ。」というところで、昨日の花は潔く枯れ落ちたのである。後になって、妻から今年の朝顔は「西洋朝顔」といって、昨年までのものとは違うのだと教えてもらった。

こんな時はすぐグーグルの出番である。「西洋朝顔」でググってみると、それは、我が国の朝顔とは違う種で、秋口に咲き始め、霜が降りる頃まで咲く、とある。この原稿を書いているのが十一月の末で、もう初雪も降ったが、今朝二つの花はまだそこにあった。というよりも咲こうとして頑張ったとしても言おうか。花のがくから顔を出した紫に近い青色の蕾は、開く前に低温に曝され、凍ってしまい、くじけてうな垂れたままである。咲く前に命の終わりに向かって進んでいったということか。

そして、ウイキペディアには、別名として「ヘヴンリーブルー」とある。言葉としてなんと美しい響き、そして盛りの頃の、透き通った青をなんと律儀に伝えていることか。和訳の「天上の青」ではとても表しきれない「heavenly blue」。ところが、

heavenly blueでググってみる

と、「Kalatinaが歌うheavenly blue（アニメ「アルドノア・ゼロ」オープニングテーマ）」の項目だけが並んでおり、私が探す花の名前としては、ややしばらく探してやっと出てくる始末。

恥ずかしながら（？）私は、Kalatinaというヴォーカルグループも知らないし、アニメ「アルドノア・ゼロ」も、ご存じない。仕方ないから、YouTubeで曲を聞いてみた。確かに、いい曲ではあるが、若い人たちに袋叩きにあることを覚悟で言えば、この曲はheavenly blueという言葉には似あっていないと感じた。なにか、夢見がちな語感だけを一人歩きさせたのではないかと思うことしきり。

それにしても、私は前日咲いて次の日まで咲き残っているheavenly blueの花を惨めだと断じたが、今を盛りと咲き誇っている若者たちの中にあつて、醜い姿を曝して美観を損なっている（と思われている）のは自分自身ではないのかと思う。今朝の二つの花たちはまだ蔓にしがみついているか、夕暮れ佇む庭に出てみよう。

「共育ちカンガルー日記」

(46) 親の宿題

近藤みちる

「十歳」という年齢は、子どもの成長でひとつの節目と言われている。学校では第四学年にあたり、高学年の仲間入りを果たす年齢でもある。

授業参観などで時折目にする子どもたちは、背丈が伸びただけではなく、低学年の頃のと比べてはなかりと影を潜め、顔つきや立ち振る舞いまでも、大人びてくる。

変わるのとは外見だけではない。十歳前後になると、自分を客観的に見つめる力が備わってくるという。「十歳の壁」という言葉があるが、周りの友達と自分を比較して、コンプレックスを抱えるようになるのだとか。思春期の入り口とも言われ、子どもの側から親離れを始める時期でもあるという。

我が家の優希も、今まさに十歳。身長は百五十七センチを超え、体つきもすっかり女の子らしくなった。髪を伸ばし、学校に着ていく服も髪形も、毎朝自分で選ぶようになった。少し生意気になり、もう親の言い方にはならなくなった。

そんな優希が、最近しきりにこんな問いを私達にぶつけてくるようになった。

「優希はみんなと違うの？ 四年生で優希だけがなかよし級なのは、どうして？」

実は、優希が小学校に入学した頃、私達は療育の先生から、こんな宿題を出されていた。

「近い将来、優希ちゃんはず自分の障害について、真実を知りたがるようになります。そのとき、優希ちゃんにどう伝え、どう支えていくのか、今のうちから準備をしておかなければなりません。優希ちゃんが決して絶望することなく、未来に夢や希望を思い描けるような『自己理解』を果たすこと。それを支えることが、これから先の親の役割です。」

それは私達にとって、途轍もなく大きくて重い宿題だった。まだまだ、ずっと先の話だと思っていたのだが、どうやら「そのとき」が来てしまったようである。宿題の答えを未だ掴めぬまま、私達はともかく、優希の問いに向き合う決心をした。

静かな休日の午後、私達は慎重に言葉を選びながら、こんなふうに優希に切り出した。

「優希はこの頃よく『優希とみんなは違うの？』って聞くよね？ 今か

ら、そのことをお話ししようと思うんだ。」

「うん」。優希は真剣な眼差しを私達に向けた。

「優希は、みんなと違っていいわけじゃないんだ。ただ、みんなよりも脳が『敏感』なんだよ。」

「脳が『敏感』って、なに？」

「優希はよく『人が大勢いると頭が重たくなってきた、疲れて欠伸が出ちゃう』って言ってるよね。それは優希の脳が『敏感』だからなんだ。『敏感』だと、脳がすぐに疲れちゃうんだよ。」

優希は私達の言葉にじつと耳を傾けていた。

「優希だけが『敏感』なの？」

「優希だけじゃないよ。でも『敏感』じゃない人の方が圧倒的に多いんだ。」

「どうして優希は『敏感』になっちゃった？」

「生まれた時から『敏感』だったんだ。」

「えー、生まれた時からなの？ 優希は『敏感』に生まれたくなかったよ。どうして『敏感』に生まれちゃったの？」

「ごめんね。それは誰にもわからないことなんだ。神様が決めたのかな？」

「神様、勝手に決めちゃったの？ 優希は『敏感』に生まれたくなかったの。」

たのに。」

優希は、湧き起こる素直な思いをそのまま言葉にして、私達に返してくれた。その中にある、優希のやり場のない切ない思いを受け取りながら、私は、この切なさとの対峙こそが、優希の「自己理解」の本質なのかもしれない、と思った。

だが、それ以上に私は、優希と私達がこんなにも豊かに言葉や気持ちを通い合やすことができるようになったことの奇跡を、思わずにはいられなかった。いつの間にか優希は、こんなにも育つてくれたのである。

「優希は誰よりも頑張り屋さん。お母さんはそんな優希のこと心から尊敬しているよ。」

私の言葉に、優希は照れくさそうに、そして少し誇らしげに微笑んで見せたのだった。

その日から、私達は毎日のように、優希と『敏感』について対話を重ねている。「自己理解」の道のりは、まだまだ先が長そうだ。

だが例の宿題の答えは、優希が教えてくれた。正しく導くことが親の役割ではなく、わが子の歩みに寄り添っていくのが親というものなのだと。そう、優希にとって必要なことは、いつだって優希が教えてくれるのである。

いつか来た道冬のたんぽぽ摘んで
みちる

以前、或る男性歌手のリサイタルに行った時、その歌手の方が、次のような事をおっしゃったのを覚えている。

「土井晚翠作詞、滝廉太郎作曲の、あの有名な『荒城の月』のことについて、『春高樓の花の宴』の

作曲？ 編曲？

中島 睦雄

歌い出しの部分の『花のえん』この「え」の部分には「#」の印を付けて滝廉太郎は発表したのだが、後に山田耕筰が、あの「#」のしなしをはずして発表した」というのであった。その他にも、いろいろと改作して世に出した。それが今、一般に歌われていた荒城の月だという。その為に、あの部分の優美さが欠けたのではなからうか、ということであった。

そこで、その歌手の方は、その「#」の付いた音で歌った。なるほど、そう言われてみれば、その通りかもしれない。あそこに

「#」を付けて歌うと、やや優美に感じられた。

その後、別な歌手に会ったとき、その事を話してみた。

すると、その歌手の方は「いや、滝廉太郎は、荒城の月のメロディーだけ作ったので、後に山田耕筰が伴奏譜を付けて、つまり編曲をして出した。その時「#」をはずした曲として出したのだろう。その事によって、現在、日本人の誰でも知っているようになり、誰でも歌えるようになったと思うので、あれで良かったのであろうよ」との事であった。

私には編曲というものがどういうものかわからないが、なるほど、言われてみれば、山田耕筰の編曲によって、荒城の月が日本人全体のものとして愛され、歌い続けられていたのであろう。原作者の曲に、第三者が別な部分を付けたり、削ったり、そしてこれが、一般の人々に受け入れられて、歌い継がれていく。

これは、音楽だからあり得るのかもしれない。

美術の世界では、音楽の「編曲」にあたるやり方は存在しないのではなからうか。修復というものはあり得るが、編曲や改作にあたる

ものは聞いたことはない。

ゴッホのひまわりについて、どうも花びらが少し短いようだから、長めにしようと言って、原画の上に油絵の具をごつてり付けたとする。もう、こうなったらゴッホの作品ではなくなってしまう。

まして彫刻などに於いては、編曲にあたる改作は、たとえ部分的にであっても許されない。ロダンの作品「考える人」の腕の置き方が、無理があるようだからといって、腕を造りかえたとすれば、もう全く価値のない作品、破損であろう。

しかし、絵や彫刻でも、制作の過程に於いて、指導者が少し手を入れるくらいなら、これは指導者の作品でなく、制作者本人のものである。

私が高校生の頃、高名な画家斉藤与里先生の講習会があった。そこへ参加させてもらったものではあるが、与里先生は、私が描いているキャンバスに少し手を入れてくださった。柔らかい、美しい色のタッチを入れてくださったって私は、はっ！とした。先生は、そのまま次の人の所に移ったが、できあがった作品は勿論私の作品であって、与里先生の御作ではない。

最近私は、知り合いのMさんから、一枚の絵を見せてもらった。

高名なセザンヌの作品で、花の絵である。本物？ではない。ペニヤ板にキャンバスを張り付け、これにセザンヌの花の絵を「印刷」したものである。この絵は、あちこちの色が褪せていたのであった。

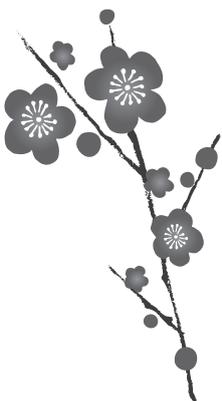
そこで、私がセザンヌの花の絵に、油絵の具で少し鮮やかに色付けすることになった。

私は、セザンヌの画集を見て、参考にしながら原画に近づけようとして、色々と工夫して塗り込んでいった。

したがって、以前とは見違えるように鮮やかな絵になった。

しかし、「これはセザンヌの作品です」などとは言えない。まして「これは私の作品です」などとも、絶対に言えない。

「寝言を言うな、馬鹿!!」とも言われるのが、関の山であろう。



どうもありがとうございます



新年あけましておめでとう。昨年はあたたかいご支援ありがとうございました。子どもたちも元気に毎日を過ごしております。今年もどうぞよろしくお願い致します。

梅田 由味子

あけましておめでとうございます。皆様のおかげで無事に新しい年を迎えられることに感謝を申し上げます。本年も変わらぬお引き立ての程宜しくお願い申し上げます。

関根 裕介

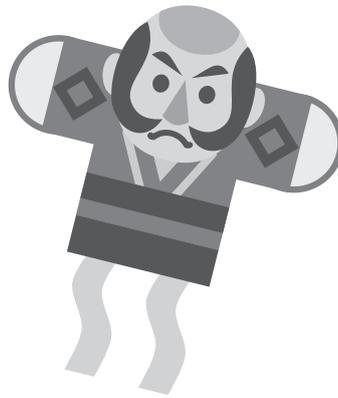
明けましておめでとうございます。いつも子どもたちにあたたかいご支援ありがとうございます。皆様のおかげで子どもたちは一つ一つ成長を上げています。新年がより良い年でありますよう、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

佐俣 浩代



あけましておめでとうございます。昨年度は大変お世話になりました。ありがとうございます。今年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。今年も戌年で、私は年女です。さて私は何歳になったでしょうか？ 12×□□□……

倉澤 智子



明けましておめでとうございます。本年も皆様健康でありますようお願い申し上げます。

五木田 共三

明けましておめでとうございます。今年も子どもたちの健やかな成長を共に見守っていただけたことが嬉しく思います。今年もどうぞよろしくお願い致します。

古谷 みどり

あけましておめでとうございます。皆様のおかげで無事新年を迎えることができました。ありがとうございます。日々の出来事のひとつひとつを大切に、感謝して過ごせるように。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

東宇 沙晃

あけましておめでとうございます。今年も子どもたちと一緒に、「たのしく」、「おいしく」をモットーに生活していきたいです。今年も宜しくお願い致します。

牧野 由紀子



明けましておめでとうございます。去年から光の子どもの家ではたらきを手伝わせていただいている奥寺と言います。いつも子どもたちへのあたたかいご支援ありがとうございます。本年も宜しくお願い致します。

奥寺 美鈴



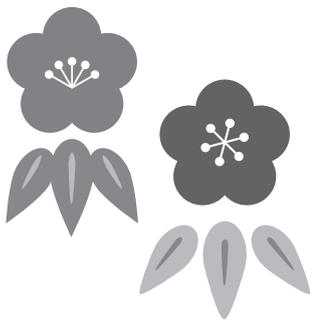
明けましておめでとう

あけましておめでとうございます。
皆様方のお支えに感謝いたします。今年も体調を整え、子どもたちの夢と希望のために必要なはたらき手となるよう走り続けます。どうぞよろしくお願ひ致します。

小西 剛史

謹んで新年のお祝いを申し上げます。昨年中は、光の子どもの家に格別のご厚情を賜り、ありがとうございます。本年も昨年同様、ご指導ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

湯澤 有子



新年明けましておめでとうございませう。本年度も子どもたちと笑顔あふれる毎日が送れるよう「暮らし」とは何かを考えながら生活していきたいと思ひます。今後とも光の子どもの家をよろしくお願ひ致します。

遠藤 恵里香



明けましておめでとうございませう。皆様のお祈りとお支えのおかげで、新しい年を迎えることができました。今年も子どもたちが安心して、笑顔でいられる生活を目標にはたらきをしていきたいと思ひます。今年もよろしくお願ひ致します。

細淵 野宜江

新年あけましておめでとうございませう。二〇一七年もあつという間に過ぎ去り、二〇一八年を迎えました。いろいろあつた一年でしたが、この一年で学んだことを未来に活かしていきたいから頑張り続けたいと思ひます。これからも光の子どもの家を見守り続けて下さるようお願ひ致します。

新吉屋 健太

謹賀新年
新年あけましておめでとうございませう。旧年中は大変お世話になりました。本年も子どもたち、職員の為に事務処理を的確にこなし、より一層努力していきたいと思ひます。これからも変わらぬご支援をよろしくお願ひ致します。

福島 文明

新年明けましておめでとうございませう。昨年は大変お世話になりました。今年も皆様の心温かきお守りとご指導のもと一年間「感謝」の気持ちをお忘れすることなく、子どもたちとともにここでの暮らしを大切にすこして参ります。どうぞよろしくお願ひ致します。

平川 光子



プ
リ
ズ
ム

スイッチ 佐藤家

あけましておめでとうござい
ます。皆様はこの年末年始をいかが
お過ごしでしょうか。佐藤家には
受験生がいますが、なぜか他の子
と同じようにテレビを見てグダグ
ダと時間をつかっています。

来年受験生の紅が高校について
話をした後になぜか突然「貴子さ
ん、紅の短所と長所……」と言
い出しました。私は少し考えてから
短所と長所を伝えました。ふむふ
むという様子で聞いていた紅に
「納得した？」と聞くと「うん」と
返事をしていました。自分の事は
自分がよくわかっていよう、
実は自分でもわからない事の方
が多かったり、一方で他人に言われ
るとわかった風に言わないでほ
しいと思ったりします。紅にはあく
まで私から見た紅の印象を伝え
ただと話をしました。「高校生
になりたいから、本気で勉強始
める」と言っている紅。自分の人生
の方向を決める一回目のチャレン
ジに自信をもって臨んでほしいと

思います。

田口 貴子



コ
タ
ツ 原田家

明けましておめでとうございま
す。昨年は光の子どもの家の為
にご理解、ご協力ありがとうございました。今年も変わらずのお支
え宜しく願います。

お正月は子どもたちにとって、
待ちに待ったお楽しみの一つです。
大晦日までは大掃除など頑張った
甲斐もあり、大好きなコタツに入
りぬくぬくと過ごします。何ヶ月
も前から「コタツ！コタツ！」と
楽しみにしていた子どもたち、お

正月は夜も遅くまで起きているこ
ともあるので職員もお正月気分を
楽しみたいのですが……。寝不足
にもなるのが毎年のことです。け
れども子どもたちにとってはいつ
と違うお正月は特別なのです。お
正月らしいことを一緒に楽しみた
いと思います。

岩瀬 志穂

お
年
玉 倉澤家

明けましておめでとうございま
す。今年もよろしくお願ひ致しま
す。

お正月といえはお年玉が子ども
たちにとっては世紀の一大イベン
トでは無いでしょうか。もらった
金額を他児と比べたり、何を買
うかと楽しい悩みに、冬休みに入
るあたりから楽しみで仕方なかつ
た私の子どもの頃を今の子ども
たちにかさねながら思い出します。
さて、私事ですが、最近の娘と
の会話で、冬のくだからお年玉
の話になり、どうやら去年のお年
玉を半分以上使わずにとつていた

ようです。しかもポチ袋も。

もらった袋のかわいさも理由に
ありますが、あの人からもらった
から、この人からもらったからと
捨てずにとつておきたいとのこと。
ハッとさせられました。

渡す側もきつとその子に気に入
ってもらえるようにとポチ袋から
選んでいることでしょうか。そして
娘は選んだ人の気持ちをもらつ
ていることも大切にしているのだ
なあと。

どうやら、もらつてすぐにお金
だけを財布にしまい、正月中に使
い切るといふ私の負の遺伝子は受
け継いで無いようです。

黒川 健一郎



げっぷをがまんする 牧野家

牧野家に小学二年生のお美樹が加わった。入所があると聞いてから、二年あまり牧野家の末っ子だった日向は「うちの妹だ!」と言って楽しみにしていた。八恵は「うーん。騒がしいのが来たらいやだなあ」と心配し、美甘は「いつ来るの?」という調子だった。

美樹は月曜の午後にやって来た。「美樹ちゃんめっちゃかわいい!」と真由子。「真由子ちゃん美人! みんなかわいい!」とお美樹。なんだろう、ずっと女子しかいなかったのに、こういう女子っぽい会話初めて聞いた気がする……。

その日の夕食、美樹が「うっ」となり全員の視線が集まる。「げっぷが出そうでがまんした……」「わあ」という雰囲気になる食卓。なんせこれまでは振動音がすると



「誰かおならした!」なんてやりあっていたのだから……。

翌日の朝食。宿舎から通いの佐藤がいつも通り六時半前にダイニングに入ると、全員揃って既に食事を始めている。今まで六時半に全員揃ったことなんてなかったのに!

「なかなか行く施設が決まらなくて、ずっと保護所にいるのかと思ってた」「どきどきする」

一週間前、一時保護所で入所事前面接をしたとき、美樹が言っていた。いろいろなことを話してくれた。好きな食べ物、歌手、ドラマ、やってみたい習い事。新しい生活に前向きなところも見せてくれたけれど、不安もとても大きかっただろう。

迎える側の子どもたちも、もちろん優しい子たちだから美樹をやらなく受け入れていこうとしているのだけど、様子見でいつもより行儀が悪くなってもいい。美樹はどんな子なのか、美樹が来たことで自分の生活がどう変わるのか、心配したり、気づかぬうちに気疲れしたりすることもあろう。

ここがそれぞれの子の安心できる家であることができるようにか

かわっていかねばならないな、と思う。

さて、三日目には美樹は牧野を「ママ」と呼ぶようになった。食事中のおなら音も帰ってきた。安心も大事だけど、多少は行儀もね。

佐藤 義岳



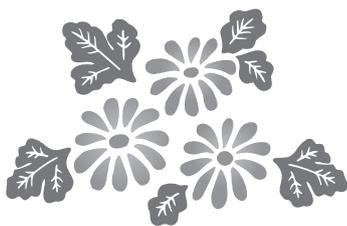
これから 仙道家

新年明けましておめでとうございます。皆様からのたくさんのお祈りとお支えを心より感謝いたします。今年も子どもたちが安心して生活のできる日常を作っていきますので今後ともよろしくお願ひします。

仙道家の長男の仁が帰宅するなり、とびきりの笑顔で「これ見て」と一通のはがきを手渡ししてきまし

た。その内容を見ると先日受験したある技能資格試験の合格通知でした。その場で「やったー、おめでとう」と言って拍手をし周りにいた職員や子どもたちに「仁が合格したよ」と伝えるとみんなからたくさん祝福の言葉をもらい、少し照れながらも本当に嬉しそうにしていました。「穴さん! 来年は、国家資格を取るから!」と意気揚々に宣言していました。昨今の今頃、高校入試を間近にして向き合えずにいた仁、入学当初、高校三年間続くかどうか心配していましたが、今のところは前向きな気持ちで頑張っております。これからの彼の人生を豊かにするために、も学校・部活・資格取得とひとつずつ自信をつけてセルフイメージを上げていってほしいと願っています。

穴水 祐介



新しい年に

菅原 哲男

明けましておめでとうございませす。

おかげさまで三十三回目の新年を、子どもたち職員一同が元日礼拝をして迎えるという伝統を守る中で第一歩を記すことが出来ました。

これまでに倍するご支援ご鞭撻を下されますよう、心から願います。

三十三回目になるこの年を送り、新たに三十四回目の年度を迎える。この期間はなにやら落ち着かない気分の四半期を過ごす。

さて、この年を迎えることは、子どもたちの不幸をメシの種にして、丁度半世紀を迎えることとなる。そろそろ区切りをつけて総括などしなければならぬ時期でもある。

しかし、光の子どもの家はここに来て来る子どもたちが失った家族的な関係と、家庭的な時空を保障するために立ちあげられたものである。

さてずいぶん前から老いの居場所が家庭的と言われる時空から無

くなりつつある。いわゆる施設入所という方策を得て。

家庭的時空とは、そこに生まれ、嫁ぎ子をなしてそれを育て、そして死にゆくものであろう。

新年に当たりこれまで多くの決意や覚悟を書き連ねてきた。それらの多くはただ書いただけで終わ

つたものが累々としていたのだが、この度の年に向かつて、決意や覚悟はおろか、しなければならぬこと子どもが浮かんでこないのがある。

もちろん課題は数え切れないほどあるのだが、私にとって、この世の終わりが近づいてきていることも実感している。

この数年、現場に少し間を置き、具体的にはたらきを縮小してきた。たとえば、覚醒剤禍に陥った母や、性的な逸脱をしてしまった少女たちなどの社会的回復を願ってするはたらきに関わりながら。

先月下旬、覚せい剤取締法違反を繰り返した母を持つ、十九歳の女性が妊娠したと相談があり、女性と母が住む四国に出かけた。そ

の町の駅に約束をした時刻について待った。しばらく待ったがその女性は現れない。そこで携帯で電話するとすぐに出了。約束を忘れたのかと、どうしたと聞くと、今お風呂に入っているという。それはおかしい、どうしてお風呂なのかと聞くと、だつて二晩入浴していなかったという。そんなやりとりをして、がちがあかないので母に電話をした。夜も遅いので、明日女性を連れて会うことを約した。

翌日、母と会い、それから女性のアパートに行き、話をした。約束は最も大事な優先事項であり、守らなければならないことなどを伝えた。そして妊娠していることを確認して、誰が父親なのかについて聞くと、分からないという。どうして分からないのか、と聞く

とメールでのやりとりで名前も年も知らない人だという。メールが来てそのままその夜のうちに同衾したものである。何とも理解に苦しんだ。若い人たちの性についての現実の一端を知ったがどうも理解に苦しいものであった。こんなことはしてはいけないことを届かないことを承知の上で伝えるために相当な時間を遣った。

産みたくないかと聞くと、産まないとはつきり言った。そこで、中絶について、このことは殺人で

あることや、母体への悪影響などを母と共に伝え、決して繰り返さないよう念を押しした。

この女性は、二歳で光の子どもが家に来て高校二年で退学し、母の住む四国に渡り母とその後孫と共に住み暮らししていた。それまで数度にわたって訪問し、母との暮らしの調整をしてきたものである。

この母も社会的暮らしのための援助をしてきたが、覚醒剤依存がアルコール依存につながり、医療との関わりを絶てない状態が続き、再婚を機会に社会生活の見直しを立てられるようになりつつあった。

今年はこの様な状態の親子が複数あり、何とか通常の社会生活へと遠い道のりを伴走していかねばならない。

それにしてもこのはたらきの道は険しく、見通しが立たないものであることをしみじみ思う。そして私も馬齢を重ね、エネルギーも減退し、多くの職員たちの思いやりに支えられながら、あと一息続けなければならぬと思うことしきりである。

いつまで、こんなことが出来るのか見通しなどない新年をもう一度迎えた。

裸木や無名のいのち果て見えず

現場から

〇〇会

池田 祐子

新年明けましておめでとうござ
います。昨年は大変お世話になり
ました。今年もよろしくお願ひし
ます。

佐藤家で私が担当している中学
生の柴太は、月に一度、事務職員
である福島に温泉に連れて行っ
てもらいます。柴太の他に原田家の
武士も一緒です。

「温泉同好会」と称し、温泉を
満喫し、その後は夕食も楽しんで
帰ってきます。

福島は毎月毎月、「温泉同好会」
の活動を続け、もう数年です。柴
太も毎月楽しみにしていて、喜ん

で参加しています。
すべて福島の厚意であり、何年
も継続してくれていることが柴太
にとつて安心感を得られるのだと
思います。

光の子どもの家には、福島の他
にもそのような活動を自発的にし
ている職員が多くいます。

小西指導員は月一回思いきり肉
を食べるぞと肉好きの子どもたち
を集めた「肉会」、穴水指導員は
チョコ好き、イチゴ好きの子ども
たちを集めた「チョコ会」期間
限定イチゴ会を主催し、日程を
調整して出かけて行きます。
「〇〇会」と称し子どもたちと



楽しんでるのは男性職員だけで
はありません。

ある担当保育士は「へび会」と
称し、爬虫類好きの子どもたちを
へびカフェに連れて行き、へびと
ふれあい楽しんでいきます。

また、職員から子どもへの誕生
日プレゼントとして、一緒に外出
することもあります。各々の職員
が家や担当グループの枠を超えて
の取り組みです。

以前担当していた子どもや気が
かりな子どもなど特にプラスアル
ファのかかわりが必要だろう、と
いうことを各々の職員が考え、そ
の子どもの担当保育士と相談、連
携しながらすすめています。

私も子どもを担当していますが、
多くの職員が子どもとかかわり、
良い時間と関係を作ってくれるの
は、子どもたちにとって必要なこ
とでありがたいことと思っていま
す。

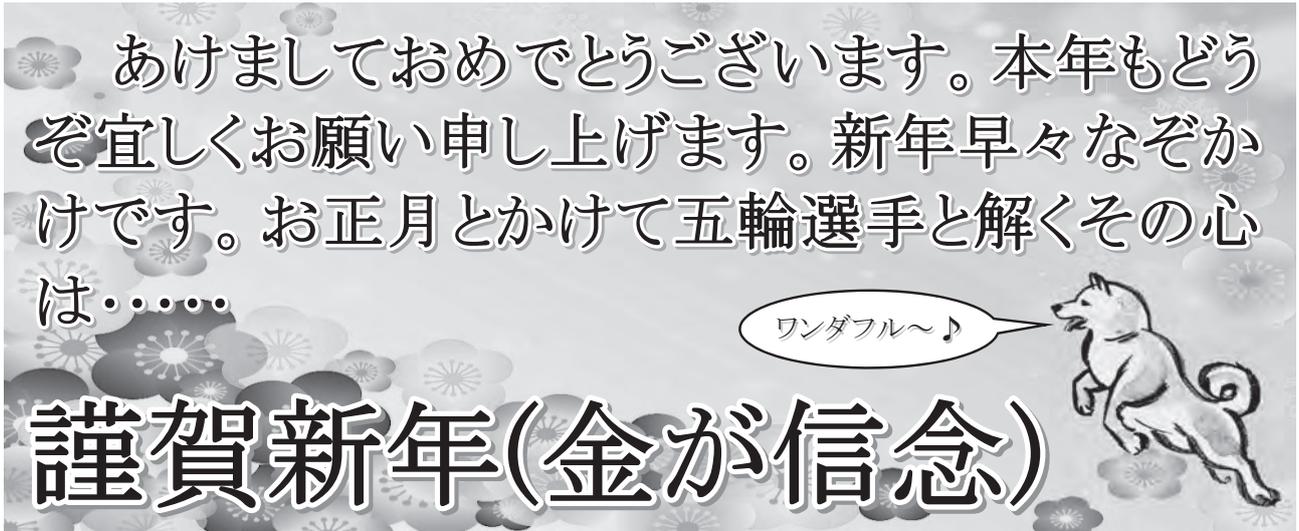
あくまでも職員の厚意です。職
員が無理をせず、子どもと一緒に
楽しむことが大切で、それができ
ているから継続できているのだろ
うと思います。

私が「〇〇会」をやるなら何が
できるのかな、と考えてみました

が、なかなか継続できるものと思
いつきません。

「シエスタ会」はどうでしょう
か? ゆつくり、お昼寝をし、ま
ったりするのはです。「何寝言を言
ってんの!」と言われそうです
が……。





日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2017年9月~10月

- 2017年10月現在
 幼児6名 小学生13名 中学生6名 高校生8名 計33名
- 9月
- 1日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
 - 5日 渡部かずき命日 記念礼拝、卒園生、同級生来訪
 - 10日 児童数名、職員引率で退所児童アフターケアセミナー出席
 - 11日 9月生まれの誕生会
 - 14日 埼玉児童福祉研究会に小泉出席
 - 15日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
 - 19日 藤岡孝志氏による施設内研修 感謝
 - 22日 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝
 - 25日 日本社会事業大学より実習生
 - 25日 衛生推進者研修に池田出席
 - 29日 通報避難訓練実施
- 10月
- 3日 保健所食育研修会に梅田出席
 - 4日 十五夜、幼児中心にお団子会
 - 8日 幼稚園運動会
 - 11日 赤十字奉仕団による除草 感謝
 - 11日 光の子どもの家後援会によるうどん会 感謝
 - 13日 東大宮教会の久保島泰牧師による夕礼拝 感謝
 - 13日 旭児童ホーム理事会に菅原理事長出席
 - 13日 園庭の庭木の剪定
 - 16日 10月生まれの誕生会

- 18日 児童虐待防止研修に穴水出席
- 19日 各家畳替え
- 20日 東埼玉バプテスト教会の木田浩靖牧師による夕礼拝 感謝
- 21日 新任職員関根裕介着任
- 27日 守谷教会の若月健吾牧師による職員礼拝 感謝
- 30日 (株)キャストリック様より招待された音楽会へ 感謝
- 30日 ワークステーション中山様より就労支援の申し出を頂く 感謝

- <寄贈者各位>
- 匿名希望 志ほや 鈴木 坂本和歌子
 セカンドハーベストジャパン (株)TSロジスティクス
 (株)なとり 大高 白ゆり美容室 井出好男 松本明子
 大橋清栄 富岡真由美 根元勝美 吉羽良美 秋山清二
 宿屋幸代 榎本真実子 大久保正禎 青島慶子 木村郁子
 長谷川雅之 他多数の皆様
- <ボランティア各位>
- 田村誠 日本青少年音楽芸能協会 聖学院大学学生
 櫻井秀夫 岡本有代 向井進 山田智 山田裕子
 丹羽健太郎 常松洋介 加藤瑠海 島崎なぎさ 鎌田洋子
 他多数の皆様

☆昨年は大変お世話になりました。本年も宜しくお願いします。(黒川)

////// ———— 反 射 光 ———— //

あけましておめでとうございます。皆様のおかげで今年も無事、新しい年を迎えることができました。☆思い起こせば三十三年前、何もかもが光の子どもの家にとって初めてでしたから、季節ごと、行事ごとにひとつひとつ、職員みんなイメージを語り合いながら作ってきました☆お正月についても「コタツでのんびり過ごす」等の話が出、今の光の子どもの家のお正月につながっています☆三十三年前は、こんなに多勢の卒園生たちが帰ってきてくれるとは全く想像もしていませんでした☆帰ってきた彼らが楽しみに談笑しているお正月の風景は、ずっとこの先も変わらないで欲しいなあと思っています☆一方で、誰もが帰ってこれるわけではないという現実もあります☆やはりある程度、落ち着いた生活を送っている子どもたちは、自分の都合やこちらの都合で正月には来れないわけですからそれは全く私たちの、私の力量のなさなので、本当に申し訳ないといえませんが、少なくとも遠くから、彼らの生活が少しでも落ち着くよう願うことしかできない私たちです☆それでも、どの子にとっても実家であり続けることを願い、志し続けていきます☆どうぞこの一年もよろしくお祈りします (岩崎)